

## 平成20年度 女(ひと)と男(ひと)が築く人権フォーラム 「地域防災に男女の視点を！」

日時：平成20年11月13日(木) 13:30~15:50

場所：奈良市ならまちセンター 市民ホール

### ◇第1部 基調講演

テーマ「13年目の宿題～阪神・淡路大震災の経験から～」

講師：相川 康子さん(特定非営利活動法人 NPO政策研究所理事)

阪神・淡路大震災時、長期化する避難所生活で体調を崩す人が続出したこと、家庭で女性の負担が増大したこと、女性の解雇が相次いだことなどから、「防災」や「減災」について、地域で考えることや、女性のニーズやリスクを想定して考えることの必要性について講演いただきました。

なお、地域防災について考えるにあたって、3つポイントを挙げられました。

1つ目は、災害は家庭や地域に男性がいない時間帯に起きることもある、いつ起きるか分からないので、現在のような男性中心の訓練や備えでは危ないということ。

2つ目は、災害時には初期の救命・救急だけが注目されがちだが、復旧・復興、さらに減災と、長い過程がある。とくに地域防災は、福祉や環境などからめられた総合的な減災の取り組みが必要で、女性を含む多くの人の参画が不可欠であること。

3つ目は、防災の取り組みに男女共同参画を徹底していくことは、誰にとっても住みよい社会をつくることである。だから、その取り組みを前向きにやろう！ということ。

防災は男性だけでなく女性も担うべきであり、地域防災には男女の視点が必要であるということについて、わかりやすくお話していただきました。

### ◇第2部 パネルディスカッション

テーマ「わたしたちに何ができるのか」

パネリスト：中平 えり子さん(橿原市消防団第10分団長)

中川 直子さん(ならどっとFM放送部長)

西谷 義則さん(奈良県防災統括室長)

コーディネーター：相川 康子さん(基調講演講師)

まず、パネリストが各自の取り組みについて発表し、住民が地域防災を考えることの重要性と意義について考えました。

中平さんは、阪神・淡路大震災をきっかけに女性消防団に入団されたことや、普段の活動である独居高齢者の訪問に女性の視点を生かしていること、そのなかで感じた、普段から地域とつながっていることの大切さについて述べられました。

中川さんは、地域FM局の災害時の役目や日頃から一緒に災害放送訓練を行って行きたいと考えて募集した災害放送ボランティア“F”の活動についてお話いただき、地域を知ったうえで活動することの必要性を述べられました。

西谷さんは、奈良県地域防災計画の修正作業で、防災対策を推進する際に女性への配慮を明記したことや、避難所運営マニュアルの策定など奈良県の防災対策について説明され、奈良県は災害が少ないけれども、災害への備えが必要だとの認識をもつことが重要だと述べられました。

次に、災害時という非常時にすべての人の人権が守られるためには日頃から何に取り組むべきかについて意見交換を行い、防災訓練や災害放送ボランティアなど住民が率先して活動することの意義や、普段から男女共同参画が実践されている社会でなくてはならないことを確認しました。

相川さんからは、行政が防災計画に女性の声を入れるなど、防災分野に女性が参画することが大事であるとともに、防災とは直接関係がないと思われるような日頃の地域での活動も防災・減災とつながっており、持続していくことが大切であるとアドバイスをいただきました。